

[歴 史 民 俗 資 料 館] 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■ 事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H26 年度計画額 (単位：千円)		H26 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	文化財保護事業	B	2, 7 7 0	3 0	0. 5	1
2	歴史民俗資料館運営事業	B	1 4, 5 3 5	4 0	0. 5	1
合 計			1 7, 3 0 5	7 0	1	2

■ 特記事項

--

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	1
事業名	文化財保護事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	町内に残る貴重な文化財の保護・保存に努め、次世代に継承していく。 また、文化財を積極的に活用することによって、学校教育・生涯学習に寄与する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定文化財の保存と普及 ・ 新規に指定可能な文化財の調査 ・ 町の歴史に係る調査 ・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の継承と普及 ・ ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<p>町内に所在する指定文化財及び指定はしていなくても郷土の歴史を考える上で貴重な文化遺産について、日々の調査とともに、少しでも町民の目に情報が触れるように心がけているが、さらなる保存・活用方法について検討しなければならない。</p> <p>伝統芸能について、各地区における保存・継承の度合いに差はあるが、地区によっては苦慮している。また、例年開催している伝統芸能発表会は、昨年度も雨天により中止となったため、当日雨天中止でも開催できる方法を模索しなければならない。</p>		
平成 26 年度 の目標又は 改善策	<p>指定文化財のみだけではなく、町内に残る貴重な文化遺産についての調査を進めながら、その成果を町民に還元するなど、普及啓発活動も推進していく。併せて、新たな活用方法も検討しながら適宜実施する。</p> <p>近年連続して雨天中止となっている伝統芸能発表会については、平成 25 年度において町内の施設内の開催は難しいと判断できたため、代替日を設定するなど必ず開催できる方法を考える。また、平成 21 年度より実施している大口北小学校との交流会も引き続き開催し、子どもたちへの啓発活動も進め、伝統芸能の維持・発展に努める。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
11	文化財の普及啓発活動 文化財に関するイベント・講演会等を検討・実施。 その他、文化財の認知度を高めるため、その啓発の活用について研究しながら実施する。 文化財マップを活かした啓発活動についても適宜検討し、実施する。
5	伝統芸能の保存・継承 学校連絡会等にて、伝統芸能の活用事例（大口北小学校）を宣伝し、他の小中学校に活用の提案をする。
6	伝統芸能保存会会議内において、各地区の現状等を聞きとり、今後の活動に向けて議論を進める。
10	伝統芸能発表会の開催
11	大口北小学校との交流会。他の学校でも条件が整えば実施する。

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	・ ・
H28 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	2, 5 6 5	2, 8 1 3	2, 7 7 0
(内特定財源)		千円	2 3	3 0	3 0
人工	職員	人工	0. 5	0. 5	0. 5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1. 5	1. 5	1. 5

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金 額	備 考 (充当先等)
その他	3 0	町史、遺跡報告書売払い
合 計	3 0	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目 (科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

文化財の普及・啓発について、今年度は町内の各団体へ文化財啓発イベントを提案して回った。その結果、南保育園年長を対象に計3回開催した裁断橋物語や堀尾氏邸宅跡の啓発活動「郷土を愛する心を育てる活動」をはじめ、町内外問わず各団体より依頼を受け、現地での解説等を実施。現地解説では、文化財マップ及び指定文化財の情報が掲載されているコミュニティバスの時刻表を活用した。また、指定文化財に限らず地域に眠る文化遺産についても調査を進めた。また、大口中地域自治組織の歴史・民俗研究会にアドバイザーとして参加。中地域に所在する文化遺産の調査研究・普及活動に努めた。

秋の伝統芸能発表会は、各地区の保存会及び大口中保育園と調整し、今年度から予備日を設けた。幸運にも予定通りの日程で開催。また、町外の伝統芸能団体（江南市・安良棒の手保存会）にゲスト出演してもらう等、例年の発表会の演目を一部変更した。さらに、大口北小学校の連携授業「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」を今年度も実施。体育館に係る工事の都合上、本来の11月ではなく2月開催となり、当日は大変寒かったが、各保存会の方々と児童の熱意溢れる交流が印象的であった。

■評価

指定文化財の普及・啓発は、町内外の団体より現地解説等の依頼を受け実施することができた。特に南保育園における一連の活動は初めての試みであったが、地元の文化財に親しむという意味においては非常に効果的であったと思う。上記の普及・啓発活動は今後も継続して推進していきたい。また、指定文化財の保護と併せて、近年急速に失われつつある地元の文化遺産や過去の情報（記憶）についても、今後調査・記録を進めていかなければならない。

近年雨天による中止が続いた秋の伝統芸能発表会は、無事に予定通り開催できた。今回の発表会は、予備日を設け、町外の保存団体にゲスト出演してもらう等、内容に一部手を加えたことにより、参加する各地区の保存会にモチベーション向上と活気をもたらす機会を創出できた。大口北小学校の連携授業も大変盛り上がり、児童のために解説用シートを各保存会が独自で準備する等、本事業に対する保存会の方々の思いが伝わってきた。この雰囲気を変えないように次年度以降も継続していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	2
事業名	歴史民俗資料館運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	先人の培ってきた過去の営みを現在に伝え、郷土「おおぐち」にまつわる事柄や、美術分野などの展示により、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の授業、グループ学習、休日の子どものための学びの場として、家庭・子どもの教育に貢献する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回の企画展開催 ・ 常設展示室の管理 ・ 展示解説及びそれに係る調査研究 ・ 文化財収蔵庫の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵品の電算登録と管理 ・ 学校授業での見学受け入れと出前授業 ・ 博物館実習生の受け入れ（一週間） ・ 年報、展示図録、研究紀要等の発行 		
現在における 経過又は課題	<p>季節ごとに年4回開催している企画展のうち、定例化した春の企画展「端午の節句」と冬の企画展「ひなまつり」は大変好評であり、毎年多くの方々に利用していただいている。上記2本の企画展を中心に、来館者数をさらに増やし、歴史民俗資料館の存在を認知してもらう必要がある。</p> <p>文化財収蔵庫内における収蔵品（主に民俗文化財）の電算登録については、平成24年度に策定した計画どおりに進行中であるため、今年度も継続して実施する。また、建物を含めた収蔵品の有効活用を拡充しなければならない。</p> <p>学校など教育機関との連携も、現状では授業での資料館・文化財収蔵庫の利用、グループ学習等で利用していただいているが、さらなる連携強化が望まれる。</p>		
平成26年度の 目標又は 改善策	<p>企画展の内容を、郷土に根ざしたもの、住民参加型の展示、学校との連携がとりやすいものなど、来館者がさらに増加するような展示を目指し、町民への資料館の認知度を深めていく。そのためにも、周知方法の拡充等模索する。</p> <p>文化財収蔵庫内の収蔵品電算登録及び整理については、平成25年度に2階南棟を中心に実施したため、今年度は2階北棟を進める。また、文化財収蔵庫及び収蔵品の有効活用を推進するため、文化財収蔵庫の外壁改修及び内部の防火・防犯機器を新しく設置し、収蔵庫内を適宜解放、見学できるようにする。</p> <p>小中学校との連携をさらに深めるため、各学校に対し積極的に事業提案を進める。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	学校連絡会等で、資料館と連携してどのような事業が展開できるか提案する。 収蔵庫外壁改修工事及び防火・防犯機器の設置工事を実施。 施工後は、文化財収蔵庫内の適宜解放を開始し、ふれあいまつりなど、収蔵庫周辺で大きなイベントがある際は、一日解放を実施する。
8	中学生職場体験・グループワーク、博物館学芸員実習等による資料館利用。
1	小学校3年生の授業「むかしの道具」で資料館の利用。
	年4回の企画展の充実及び宣伝方法の拡充。 企画展をより町民が身近に感じやすいテーマ、展示方法を検討する。
	文化財収蔵庫内の収蔵品（主に北棟2階）の整備を実施。

□3年間の目標

目標						
	・					
	・					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	・
H28 年度	・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	11,059	10,954	14,535
(内特定財源)		千円	101	40	40
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.5
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	1.5	1.5	1.5

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
その他	40	図録等売払、広告収入
合計	40	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
収蔵庫外壁等改修工事設計	303	303	経年劣化による文化財収蔵庫外壁を改修し、文化財収蔵庫を適宜解放するための設備設置工事等をおこない、町民に郷土の文化遺産を周知・啓発する機会を創出する。
収蔵庫外壁等改修工事監理	130	130	
収蔵庫外壁等改修工事費	3,300	3,300	
収蔵庫非常警報設備設置工事費	300	300	
収蔵庫夜間警備設備取替工事費	378	378	
電子計算機器賃借料	0	△671	平成25年12月をもって長期継続契約が終了したため。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

年4回開催する企画展のうち、春の企画展「端午の節句」と冬の企画展「ひなまつり」は昨年度と同様継続して実施。夏の企画展は愛知県美術館の作品を借用して展示し、作家による子ども向けワークショップを開催した。秋の企画展は槍ヶ岳開山で知られ、岐阜県を中心として活躍したが実は町にも縁がある念仏行者・播隆についての企画展を実施。会期中には播隆に関するイベントを開催した。

文化財収蔵庫の外壁等改修工事、非常警報設備設置工事、夜間警備設備取替工事は上半期に実施。非常警報設備が設置されたことにより、適宜収蔵庫内の解放ができるようになった。そのため、ふれあいまつり開催期間中には収蔵庫を一日解放し、内部に収蔵されている民俗文化財等を見学できるようにした。さらに小学校3年生の授業「むかしの道具」でも資料館及び収蔵庫を活用して実施した。収蔵庫内の収蔵品整理は北棟2階の整備を実施し、これによって収蔵庫内の収蔵品整理がほぼ完了したことになる。

■ 評価

春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は昨年度より来館者が増加。毎年増加している傾向にある。今後もさらなる増加が見込めるように、サービスの充実や新たな客層、リピーターの確保に努めていきたい。夏・秋の企画展も好評を受け、年間来館者数は、昨年度より増加し、15,167人であった。平成23年度以降過去最高の記録を更新し続けているため、この水準を落とさず、さらに来館者を増やして、資料館の認知度及び利用度を上げていく。

文化財収蔵庫は今年度実施した工事によって外観も綺麗になり、不特定多数の人に適宜解放できるようになった。収蔵庫内の整理も目途がついたため、今後は建物を含めた活用に向け、ふれあいまつりや小学校の授業見学での解放とともに、高齢者施設との連携等、民俗文化財が効果的に活用できるような対象を調査し、見学及び利用を推進していかなければならない。